

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏名	橋 本 勇 希
審査担当者	主査	教授	清 水 宏
	副査	教授	橋 野 聡
	副査	教授	石 田 晋
	副査	教授	水 上 尚 典

学 位 論 文 題 名

多発消失性白点症候群における網膜層厚と脈絡膜循環動態の経時的変化
(Changes in retinal layer thickness and choroidal blood flow velocity in multiple evanescent white dot syndrome)

多発消失性白点症候群 (multiple evanescent white dot syndrome: MEWDS) は網膜外層障害を生じる原因不明の疾患である。これまで、MEWDS の急性期の光干渉断層計 (optical coherence tomography: OCT) では網膜外層の形態が、定性的に脈絡膜循環を評価できるインドシアニングリーン蛍光眼底造影検査では脈絡膜循環が障害されていることが報告されている。しかし、MEWDS 眼における各網膜層厚および脈絡膜循環を定量的にかつ経時的に検討し、視機能との関連をみた報告はない。今回、申請者は MEWDS における各網膜層厚および脈絡膜循環動態の経時的変化を OCT と laser speckle flowgraphy (LSFG) を用いて検討した。

その結果、MEWDS 眼では急性期に網膜内層厚が増加し、網膜外層厚および視細胞外節長が減少し、視細胞外節長と視力に相関があった。また、MEWDS 眼では急性期に脈絡膜循環が低下し、脈絡膜循環と視機能とに相関があった。僚眼ではいずれの検討でも変化はなかった。このことから、MEWDS の病態に脈絡膜循環障害が関与すること、そして、脈絡膜循環障害により二次的に網膜外層が障害され、視機能低下が生じることが示唆された。

審査にあたり、主査及び副査より本研究に関する臨床医学的な質問があり、申請者はこれらの質問に適切に回答した。本研究は MEWDS に対して各網膜層厚および脈絡膜循環を定量的に測定した初めての報告である。また、本研究結果から、MEWDS の急性期では網膜外層のみならず網膜内層にも変化があること、網膜外層の変化は脈絡膜循環障害による二次的な障害であること、それにより視機能が低下することを示唆しており、MEWDS の病態解明に寄与するものと考えられる。本研究の内容には十分な新規性もあり、以上は既に学術雑誌にも掲載されている。

審査員一同はこれらの成果を評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受ける資格を有すると判定した。